

協働のまちづくり協議会（第8回）議事概要

《日 時》	平成 31 年 2 月 18 日（月） 午前 10 時～11 時 30 分
《場 所》	松戸市役所 別館地下 1 階 研修室
《出席者》	犬塚 裕雅 会長、坂野 喜隆 副会長 杉浦 利彦 委員、長江 曜子 委員、 文入 加代子 委員、野村 圭子 委員、門 良英 委員
《傍聴者》	0 名

1 開会

2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

3 議 題

(1) 平成 31 年度協働事業、市民活動助成事業審査の振り返り

協議会委員から、審査を振り返っての感想や意見があった。

事務局 事務局が今回の協働事業、助成事業の審査で感じたこととして、まず協働事業で言うと、「NPO法人リトム」の「人材発掘プロジェクトアーティストバンク事業」については、今回相応しい担当課と結びつけることができず、団体には申し訳なく思っている。

今後、サポセンとも連携して、丁寧に団体と担当課の意向をヒアリングし、実施可能な事業の組み立てをアドバイスするなどして各提案団体をサポートしていきたい。

市民活動助成制度については、今回初めて助成制度を利用する団体からの提案、また、現役世代の方の提案が多く、市民活動の広がりを感じた。

一方で、そういった現役世代の方で、お勤めをされながら市民活動を行っているような方からすると、本制度を利用するに際して、事務手続きが煩雑で少し使い勝手が悪い部分がある。公金を用いた事業のため、ある程度煩雑な手続きは理解してもらえないとは思いますが、現役世代の方からの提案が増えているという現状を鑑みて、少しでも柔軟な対応ができるように、今後検討していく必要が出てくると感じている。

また、提案数も少しずつ増えているので、審査が1日で終わられない場合が出てきた際の対応についても、今後様子を見て考える必要があると思っている。

会 長 担当課と団体とのマッチングは、なかなかうまくいかないこともあると思う。これは他の自治体でも同じようなことが言えるが、松戸においてはまつど市民活動サポートセンター(以下サポセン)が協働のまちづくりの推進において重要な役割を持つ施設として位置づけられているので、市民自治課だけでなくサポセンとも

連携して、良い協働のかたちに持っていくよう励んでいただきたい。

市民活動助成事業の方も、現役世代の方には事務負担がきついということがあり、改善の余地は無いかということは今後の宿題になってくるだろう。現役世代の方々が提案しやすいことは、協働のまちづくりの原動力にも繋がってくるので、少し研究をして何とか乗り越えていければと思う。

- 委員 審査の際、事業の有効性と協働の必要性という審査基準はすごく大事なことだと改めて認識した。どうしても議論が進むとつい自分のこだわりに囚われて話してしまうというきらいがあるが、初心に戻って、この事業の有効性と協働の必要性ということを認識しながら考えていかななくてはいけないなと感じた。
- 委員 審査をするには日頃からより多くの物事を全体的に捉えている必要があり、あるいは市民活動の個々の様子なども捉えている必要もある。改めて審査の難しさを感じた。
- 委員 提案団体は皆さん意義を持って楽しくやっていたらいいので良いと思うが、それが市民活動助成事業に相応しいか判断することは難しい。団体構成員の特定の個人に依存しているような事業や、助成金に依存しているような事業は今後の活動が少し心配である。
- 委員 協働事業に関しては、市民活動団体の思いもあるが、市側も重点施策というものがあるので、それを市民が知る機会があるとよい。広報やホームページでの情報提供はしていると思うが、できるだけ説明会等もっと身近に市民が知る機会があれば違ってくると思う。行政と市民がお互いに学び合うチャンスが必要なのだと思った。
- 委員 不採択になったところに対しての付帯意見はとても大事なことである。不採択となった場合でも、次はここをこうすればよいのかと次回再提案できるような付帯意見をきちんと伝えることが大事だと思う。
- 委員 協働事業で上手くいっている事業もあるが、それを他の地域へも波及させていこうとするときに、一概に同じやり方では上手くいかないこともある。場合によっては波及に際しても行政が関わったほうがよいこともあるので、各担当課の方で今後考える必要があると思う。
- 会長 協働事業提案制度で行ったモデル事業を、他の地区でも同じように再現できるかということ、その限りではないかもしれませんが。一般化して、他の地域でも応用問題として上手く活用できるようなかたちになっていくとよい。協働事業から生み出された効果の横展開というところが、協働事業の仕組みでもう一つ大切にしておきたい部分だと思う。それは担当課にも意識してもらえるとよいだろう。実施団体の方も、余力があれば横展開を考えていただきたい。
- 委員 行政指定部門という枠組みがあるが、基本的には自然体で行政と団体が一緒になって活動していくところから協働事業が発生するのが一番良い。市民活動団体が力を付けていく過程では、必ずある程度は行政と連携していると思う。それをう

まく行政がリードして、もう少し輪を広げようなどと示唆していただければ、協働事業提案制度事業に繋がっていくのではないだろうか。

委員 公共サインの事業は、都市計画課が団体をもう少しリードしてあげてもよいのではないかという印象を、プレゼンの際に受けた。

若い力も大事だが、やはりある程度は大人の考えでしっかりと方向性を付けてあげるといふことも必要だと思ふ。

会長 若い目線での学生たちの提案も歓迎したいと思ふ。行政が学生たちの持っている力を後押しする様な関係性になるとよい。

また、市がどういふ取り組みをしているのかといふことを多くの市民に知ってもらう努力は必要だと思ふが、併せて提案団体も、現在市ではどのような施策に力を入れているのかといふことを自分たちで調べてから考えを整理して提案するといふのが基本だと思ふ。どういふ部署と話をすればいいのか、どういふ話を持っていけばいいのかしっかりと準備をしていただくといふことを、団体にも求めたい。そういった過程において、サポセンのバックアップを期待したい。

委員 協働事業提案制度については、他市でも同じことやっているが、提案件数が非常に減っているといふのが現状である。ある程度件数が出ている東京の方でも、かなり呼びかけをして来てもらっているといふことがある。そういう意味で、審査が非常に重要になってくる。また、松戸市は審査が通りにくい、近隣の市では通りやすいといふこともあり得る。他市では簡単に助成金を出したりしているところもあるので、松戸市は厳しいといふ噂が、今後出るのではないかと懸念する。今後、付帯意見や不採択とした場合の理由付けがますます重要になると思ふ。また、協働の啓発活動を、市民に対して行うといふこともあると思ふが、行政がどれだけ意欲があるかといふことも今問われている状況なので、今後さらに意識を高めていくべきだと思ふ。

会長 他市でも協働事業の提案が減っているといふのは事実で、複合的な理由があるのだろうが、協働の成果の見える化、伝える化、伝わる化を意識して重ねてやることが、担当課にとっても、意識、動機づけになるし、団体にとっても自信と誇りになる。また、協働に関わっていなかった団体にとっても、協働するところなるんだと知るきっかけになり、市民にとっても協働の取り組みを理解、共感するきっかけになる。

委員 協働事業の提案が減っていることには、さまざまな要因があると思ふ。NPO法施行から20年近く経つため、その頃に出てきた団体が世代交代に失敗するなどして衰退していると思ふ。また、規模が大きな団体だと、資金の補助よりも、行政とのつながりを求めていることが多い。最近では役所の方が共催してくれることもあるので、役所の後援なんていない、といふふうになったりもする。また、民間財団の助成金もあるので、そちらに申請しようといふ団体も多い。いずれにしても複合的な要因によって事業提案を出してくる団体が少なくなっている

るのが他市での現状である。

会 長 団体にもライフサイクルというものがある、例えば子育て関係の当事者が集まった団体だと、子育てのステージが終わってしまえば、活動も終了してしまうケースがあるが、それはそれでよい。大事なのは、松戸市内各地で新しい団体や活動が生まれる状況があることである。一つ一つの団体の状況に着目するのも大事だが、松戸市という大きな枠の中で、多様な活動が生まれ、これまで活動をしていなかった現役世代の人たちも活動をするというように新陳代謝を活性化させていくことが大切だと思う。

委 員 最近、特別養護老人ホームに訪問するような活動が増えているので、市民活動助成制度でこのような活動を行っているということを知ったうえで、今後また増えてくるだろう。そういう団体が増えることは嬉しいことだと思う。

委 員 まつど地域活躍塾の塾生が、卒業後発展的に動くために市民活動助成制度を活用するのもよいと思う。

委 員 提案される助成事業を見ていると、似たような活動をされている団体も多いと感じるので、サポセンなどが中心になって、同じような活動をしている団体の交流の場を設けられれば有効なのではないかと思う。

委 員 高齢になってくると、手が空いたから何かしなくちゃという気持ちで活動を始める方がいると思う。入口はさまざまだが、上手くマッチングすればよい方向に回ると思う。そういう方のために、敷居を低くして、もう少し素人向けの取り組みをやってもらえるといいのかなという気がした。

会 長 そのあたりもサポセンを巻き込んで、多様な入口を作るとか、出会いの場をつくるのかして動いてくれるとよいと思う。そういうことで動いているのだろうとは思っている。まつど地域活躍塾の次の展開のことも、サポセンが上手く絡んで促していただきたい。サポセンはやはり重要な役割である。松戸市の協働推進計画にも、重要な役割として位置づけられており、改めてサポセンの役割は大切だなと感じる。

(2) その他

- ・市民活動助成制度実施後調査の結果報告
- ・市民公募委員の募集について
- ・まつど地域活躍塾の経過報告

4 閉会